

＜研究主題＞丹後っ子パワーMAX!!  
**主体的に取り組み、学びあう児童の育成**  
 ～互いに認め合い、レベルアップできる実践を通して～



詳細資料はこちら⇒



## 1 本校の実態 各種調査より

### (1) 令和元年度新体力テスト 学年別県平均との比較

丹後っ子の体力	性別比較	男子〔8項目〕			女子〔8項目〕			合計〔16項目〕		
		○	—	×	○	—	×	○	—	×
1年		7	0	1	7	0	1	14	0	2
2年		5	0	3	4	0	4	9	0	7
3年		8	0	0	8	0	0	16	0	0
4年		7	0	1	7	0	1	14	0	2
5年		6	0	2	7	0	1	13	0	3
6年		8	0	0	7	0	1	15	0	1

96項目中 **15項目** 県平均を下回る(約16%)  
 特に「持久力」「投力」に課題

### (2) 新体力テスト標準偏差値と平均得点の推移(平成30年度・令和元年度)

年度	男子	女子	総合	平均得点
平成30年度	12.62	14.25	13.54	53.76
令和元年度	12.60	13.53	13.10	54.27

標準偏差値・平均得点共に**改善傾向**  
 市内平均値(12.65)との比較し  
 標準偏差値が大→「**二極化**」が課題

### (3) 体育に関するアンケート(令和2年7月実施)

	好き	どちらかと言えば好き	どちらかと言えば嫌い	嫌い	
体をつかって運動することが好き	66.8%	20.6%	8.5%	4.1%	運動に対して、「嫌い」と答えた児童が12%～13%の割合でいる。
体育の授業が好き	68.5%	18.1%	8.2%	5.2%	

好きな理由	得意だから	コツがわかった	上手になった	協力できた	褒めてもらったから	学習カードがわかりやすい
		36.0%	17.8%	20.5%	17.2%	6.4%
嫌いな理由	苦手だから	コツがよくわからない	上手にならない	いやなことを言われた	けがをしそうだから	学習カードがわかりにくい
		42.9%	15.5%	14.4%	1.5%	24.0%

できる一わかれると「好き」になる。できない一わからないと嫌いになる。運動に対する恐怖感もある。

	できる	だいたいできる	あまりできない	できない
最後まであきらめずに頑張ることが出来ますか	56.0%	32.7%	9.3%	1.9%
協力して運動することが出来ますか	69.2%	21.1%	6.9%	2.7%

10%の児童が協力することや、頑張ることを困難に感じている。

## 2 研究の概要

＜研究主題＞丹後っ子パワーMAX!!

**主体的に取り組み、学びあう児童の育成**  
 ～互いに認め合い、レベルアップできる実践を通して～

### (1) 主題設定の理由

令和2年度の新体力テストは多くの項目で県平均を超えているが、持久力・投力など15項目で平均を下回った。さらに、標準偏差は、13.1と市内小学校と比べても大きく、「体力の二極化」が本校でも課題である。

情意面でのアンケートでは「運動が好き」と答えた児童は、87.4%いるものの、そうでない児童も12.6%いる。その理由は「できないから」といった技能面での課題、「すぐにあきらめてしまう」といった情意面での課題が多く、学習・生活・人間関係に表れている様子も伺える。

上記の実態を踏まえ、研究主題を『主体的に取り組み、学びあう児童の育成』とした。研究主題に迫るために自らの「伸び」を実感し、互いに認め合うことのできる授業や体育的な活動を行うことが必要であるととらえ、副題を設定した。主題に迫るためには意図的・計画的に「できるー楽しい」「仲間とー楽しい」を積み重ねる授業を行うことだと考える。単元を通して児童の課題を見極め、きめ細かな指導で個々の成長を促し、自らの伸びを実感できる取り組みを教職員が一丸となって進めていくことで、体力向上を通して学校としての一体感と教育力の向上をも生み出す一助としていきたい。

### (2) 研究仮説

#### 仮説1

視点<目指す児童像>

- ・何事にも全力で取り組み自己の伸びを肯定的に捉えられる児童
- ・運動の得手不得手にかかわらず、最後まで粘り強く取り組む児童
- ・体育だけでなく継続的に運動に親しむ児童

「わかる」「できる」を多く味わうことができれば、児童一人一人が主役となって体力を高めることができるであろう。

手立て

- ・「ねらい」の明確化と「ねらい」に正対した「振り返り」を行う
- ・スモールステップの学習課題を提示し、課題解決のための指導法の工夫改善を行う。授業モデル『丹後スタイル』の確立
- ・「わかる」「できる」を味わわせる小さな「できた」をたくさん感じさせる授業実践。(ICTの効果的な活用)

#### 仮説2

視点<目指す児童像>

- ・自分に自信が持てる児童
- ・仲間の成果を自分事のように喜び、互いに認め合う児童
- ・体育だけでなく継続的に運動に親しむ児童

仲間と共に学ぶ楽しさを味わわせ、自己有用感や集団所属感を持たせれば、児童一人一人が主役となって体力を高めることができるであろう。

手立て

- ・集団で達成感を味わうことのできる学習活動の工夫
- ・ペア学習・グループ学習の効果的な活用
- ・児童一人一人のよさや伸びを発揮できる学習活動・指導の工夫
- ・一人一人の伸びを適切に評価し、児童にフィードバックする工夫

### 丹後小の「体力の向上」

目指す児童の姿→学校教育目標「元気で頑張る子」

- ・**身体的要素**→個人差に応じた運動で技能を伸ばす。  
→健康な身体づくりのための運動習慣を定着させる。
- ・**精神的要素**→仲間とともに学び合う方法を身につけさせる。  
→ストレスに対処する方法を身につけさせる。

#### 丹後小体力向上推進委員会の指針

- ・「体育の授業」だけではなく、学校生活・家庭生活を通して体力の向上を図る。
- ・個に応じた指導で、一人一人を確実に伸ばす授業・取り組みを実践する。
- ・仲間とのかかわりを積極的に促すための手立てを共有し、体育の授業だけでなく日々の授業で実践化する。
- ・教職員のスキルアップのための積極的な研修(実技と理論)。
- ・すべての教科で「できるーわかるー楽しい」を味わわせる。



(3) 研究組織



(4) 研修の計画 (体育に関する研修 令和3年度44回実施)

- ① 校内授業研究会 全学級体育の授業研究会を実施  
9月17日(木) 東部教育事務所教育支援担当訪問  
齊藤 恵美子教諭 2年1組 マットを使った運動遊び  
濱本 乃々子教諭 5年2組 ベースボール型  
9月30日(木) 校内授業研究会  
小林 将悟 教諭 4年2組 ゴール型ゲーム  
田代 哲士 教諭 6年2組 マット運動  
11月12日(金) 体力向上研究発表(本日の授業)  
衛藤 景子 教諭 1年2組 マットを使った運動遊び  
関根 恵 教諭 2年1組 ボールゲーム  
金井 瞭太 教諭 3年2組 小型ハードル走  
横田 昂祐 教諭 4年1組 保健  
尾形 慧 教諭 5年1組 ハードル走  
黒羽 雄太 教諭 6年3組 表現運動  
2月14日(月)校内授業研究会  
佐久間かおり教諭 1年1組 ボールゲーム  
八代 徳子 教諭 3年1組 ネット型ゲーム
- ② 実技研修  
毎月1回テーマを決めて実施(詳細は裏面)
- ③ 定例の研修会  
毎週木曜日・隔週月曜日を研修日と定め、体育を中心に実施

(5) 健康教育に関する取組計画

- ① 健康貯金調査(学期に1回・5月・9月・1月) **統計協会会長賞**
- ② 学校保健委員会
- ③ 心肺蘇生法・エピペン研修会
- ④ 歯に関する講座の実施
- ⑤ 薬物乱用防止教室
- ⑥ 性に関する指導
- ⑦ 身体計測を活用した児童への講座  
・手の洗い方講座・よい姿勢講座  
・歯の磨き方講座
- ⑧ 保健委員会による統計グラフコンクールの取組
- 
- 
- 

4 成果と課題

仮説の検証と考察

(1) 令和3年度新体カテスト 学年別県平均との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
1年	県平均 9.26	12.67	27.18	28.68	22.69	11.47	116.67	8.18
1年	本校平均 9.65	14.58	30.77	29.88	24.62	11.30	124.15	8.73
2年	県平均 10.92	15.99	29.08	32.77	32.86	10.64	128.37	11.11
2年	本校平均 11.63	17.42	35.79	36.92	36.38	10.49	135.71	11.92
3年	県平均 12.68	18.26	31.29	36.70	41.59	10.10	138.70	14.33
3年	本校平均 13.35	21.56	33.79	39.41	46.79	9.72	143.35	15.00
4年	県平均 14.48	20.26	33.06	41.00	49.50	9.68	147.96	17.62
4年	本校平均 17.50	24.46	39.54	44.88	53.54	8.96	154.35	19.12
5年	県平均 16.54	22.06	35.22	44.91	58.10	9.26	157.30	20.79
5年	本校平均 21.41	26.19	46.56	49.30	66.93	9.18	158.04	21.70
6年	県平均 19.46	23.84	37.53	48.00	65.58	8.85	168.18	24.20
6年	本校平均 20.71	26.21	46.59	50.82	72.09	8.73	170.59	24.79

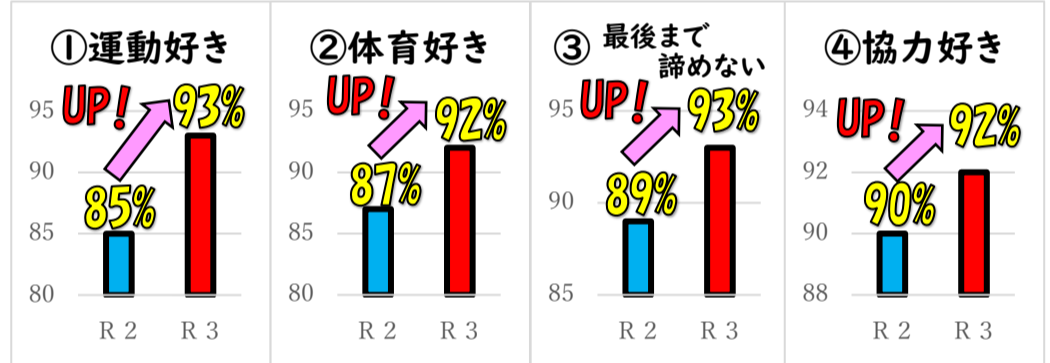
女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
1年	県平均 8.80	12.19	29.62	27.35	19.39	11.79	109.52	5.84
1年	本校平均 9.63	17.32	32.84	30.79	27.42	11.08	123.32	6.37
2年	県平均 10.42	15.41	32.11	31.23	26.18	10.97	121.28	7.61
2年	本校平均 10.91	16.88	38.29	36.03	28.94	10.63	122.56	8.38
3年	県平均 12.08	17.69	34.76	34.94	32.88	10.41	131.75	9.54
3年	本校平均 12.76	22.48	37.16	37.96	36.32	10.10	142.08	10.24
4年	県平均 13.97	19.63	37.20	39.26	40.25	9.93	142.19	11.65
4年	本校平均 16.94	22.44	42.14	41.83	43.25	9.59	144.89	11.89
5年	県平均 16.38	21.48	40.13	43.01	47.64	9.51	151.90	13.74
5年	本校平均 19.21	25.03	52.13	45.16	48.51	9.40	152.34	14.37
6年	県平均 19.36	22.79	43.58	45.70	53.43	9.12	161.07	15.79
6年	本校平均 22.21	26.19	49.35	48.23	57.67	9.06	163.90	17.62

(2) 令和元年度・令和3年度新体カテスト標準偏差値と平均得点の推移

年度	男子	女子	総合	平均得点
令和元年度	12.60	13.53	13.10	54.27
令和3年度	12.44	11.86	12.24	55.31

新体カテスト総合評価 A+B+C 児童 **95.8%**  
 新体カテスト県平均値超 **96/96項目(15項目UP)**  
 新体カテスト平均得点 **1.04ポイントUP**  
 標準偏差値 **0.86ポイント改善(女子が顕著)**

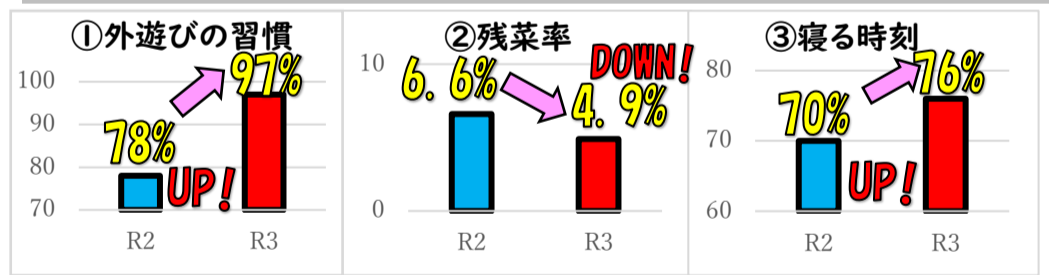
(3) 令和2年度(7月)・令和3年度(7月) 情意面の変容



「運動好き」「体育好き」「諦めない」「協力好き」の割合が向上

(4) 令和2年度1学期・令和3年度2学期における健康貯金(保健)の変容

<丹後小児童の課題>  
 「外遊びの習慣が身につけていない」「残菜率が高い」「寝る時刻が遅い」



「運動習慣」「給食を完食できる児童」「基本的な生活習慣」の数値が向上

仮説1について

- ・「丹後スタイル」の確立や技能研修会、学習過程の工夫を実践したことで、「わかった」「できた」で溢れる授業が増え、児童の技能や運動好き児童が増えた。
- ・教材教具開発により児童の自己評価が容易になり学習の成果が明確になった。
- ・思いきり運動できる場・教材、教具づくりにより児童の運動量が向上してきた。

仮説2について

- ・学習の中で集団所属感を継続して味わわせることで仲間とのかかわりが増加し、「諦めない児童」「協力できる」児童が育成できた。
- ・休み時間の使い方改善・家庭運動により授業外の運動習慣が身につけてきた。
- ・児童自身の自主的な取り組みの推奨(委員会との連携)や一人一人の伸びを適切に評価することで一人一人が率先して運動に取り組むようになった。
- ・健康教育の継続により基本的な生活習慣が改善した。

→児童の体力向上!(互いに認め合い、レベルアップすることができた!)

課題

- ・誰一人取り残すことのない体育授業・取組についての研究の継続。
- ・児童が豊かなスポーツライフを実現するために、長期的な視点を持った取組の研究。